

会員だより

【愛猫キラと私】

<榊井 敏彦>

明日は仕事。目覚まし時計4:20セット確認。リリリン・・・リリリン・・・朝が来た。まず、キラの朝食「カリカリ」を皿に注ぐ。次に私の当番の食器洗いをしていると、キラが起きてきてカリカリの皿に向かう。何粒か食した後、私の足にすり寄ってくる。そして、1m離れお行儀座りでニャン。「何?」「おやつ」のねだりだ。削りかつお節を一つまみ別の皿に入れてやる。二口三口でペロリと平らげカリカリに向かう。私は、その後、朝食（グラノラ・玄米フレーク・黄な粉・豆乳、バナナ、または昨日の夕食の残り物）を摂り、5:10には家を出る。車と徒歩で職場まで25分。開店前のレストランフロアの掃除とテーブル・椅子の整頓の仕事を4時間で終える。キラはその間、恐らく、籐の椅子か布団の上で仮眠か、風呂の窓辺で侵入猫の見張りだろう。私が11:00頃帰宅すると、キラは車の音に気づき、散歩に出たいと玄関で待ち構えている。首輪にリードかけようとする、早く出ようと頭を寄せてくる。はい、玄関横の犬走からスタート。そこら中、匂いを嗅ぎながら前進。裏庭に入り、草を口に持っていくがなかなか噛み切れない。何度か試みるが、やっぱりダメ。揺れ動く葉を口にするのは苦手なようだ。さらに、嗅ぎながら前進。蹲の竹筒から出る水を何度かナメナメし水分補給が終わると、濡れ縁の下に潜り込み一休み。リードを濡れ縁に掛けて逃げないようにして、私は散水。私が仕事の日の夏のひと時だ。

明日は休み。目覚まし時計を6:20にリセット。翌朝、4:50枕元でキラのニャーニャー。眠い。しばらく、反応しないしていると、隣の妻の足を甘噛みする。仕方なく、私は起床。5:00だ。休みの日はいつも、決まった時刻に起こしに来る。キラの朝食を皿に注ぎ、「おやつ」を別皿に入れ、キラが納得すると、散歩に出発。後は、仕事から帰ってから行動と同じだ。私が休みの日の夏のひと時1日だ。当分、覚悟だ。



キラが我が家に来たのは9年前6月。妻の猫好きの友人が段ボールに入った8匹の捨て猫を拾ってきたところから始まった。「内1匹を引き取って頂戴」と妻は言われ、私に相談があった。私たちも高齢に近づいており、その数年前に飼っていた愛猫アマは約20年も生きたので、これから飼うと、ひょっとして私たちの方が、先に逝ってしまうかもしれない不安もあり、躊躇していた。1週間が経ち数匹が、どこかに引き取られた。「最後に残った1匹を貰おう」と決断をして、また1週間。残った1匹がやせ細ったひよろひよろの、しかし、知恵の回る（いつも、1匹だけがゲージから抜け出していたらしい）錆猫だ。

普通の三毛とかフジとか茶でなく複雑な色合いだ。ゲージを買ってよいよ引き取りだ。すぐに、慣れたようで、ゲージに入り、便も所定のところすませた。しかし、朝にはゲージから抜け出していた。

それから、ずっと食事は「カリカリ」と最近覚えた「おやつ」だけ、便は必ず所定へ、これを躡けた

妻の友人に感謝する。

前のアマは刺身が大好物、カニ缶、ホタテ貝柱缶の蓋を開けたら飛んでくるグルメ猫だった。名前はどうか、お互いにラッキーだったことからラッキーとするつもりだったが、犬のようだということから「キラ」にした。キラキラ輝くという願いもこもめて。

今は、我が家の愛娘で、放し飼いにはしない箱入り娘である。(時々、玄関戸のわずかの隙間から入り込む風を察知し、爪で戸を開け脱走することもある。妻に私もキラも叱られる)

どちらがストーカーかと間違うくらい、私たちは、キラが見えないと「キラ、キラ・・・」と呼びまわすし、私や妻がベランダに出ると、寝ていたはずのキラが足元にいる。私が風呂から上がり体重計に乗るとそのピピピーという音を感じてか、すぐに、駆け付け、珪藻土板に寝転がり、背中をなでる。

猫の行動を言葉で表現するのは難しく、まだまだ、書き尽くせない。いつか、また機会があれば、もっと紹介したい。

(注：カリカリはキャットフードのことです)



いつまでも、お互いに長生きしようぜ！